



2020年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月11日

東・福

上場会社名 東宝株式会社 上場取引所
 コード番号 9602 URL <https://www.toho.co.jp/>
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)島谷能成
 (役職名)常務取締役 (氏名)浦井敏之 (TEL)03(3591)1221
 問合せ先責任者 経理財務担当
 四半期報告書提出予定日 2019年10月11日 配当支払開始予定日 2019年11月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第2四半期の連結業績(2019年3月1日~2019年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	144,058	8.3	33,539	32.8	34,578	31.2	22,885	35.8
2019年2月期第2四半期	132,984	△4.5	25,264	△21.7	26,355	△20.8	16,849	△26.3

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 19,440 百万円 (2.3%) 2019年2月期第2四半期 19,003 百万円 (△24.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	127.38	—
2019年2月期第2四半期	93.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	485,667	380,231	75.8
2019年2月期	459,646	365,903	77.2

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 368,253 百万円 2019年2月期 354,803 百万円

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	17.50	—	27.50	45.00
2020年2月期	—	17.50	—	—	—
2020年2月期(予想)	—	—	—	17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

期末配当金の内訳 2019年2月期 特別配当 10円00銭

3. 2020年2月期の連結業績予想(2019年3月1日~2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	254,000	3.1	50,000	11.2	52,000	11.7	34,500	14.2	192.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 国際東宝株式会社(Toho International, Inc.)、除外 1社(社名)

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年2月期2Q	188,990,633株	2019年2月期	188,990,633株
2020年2月期2Q	9,331,434株	2019年2月期	9,329,844株
2020年2月期2Q	179,660,050株	2019年2月期2Q	179,862,820株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述などについてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、引き続き緩やかに回復してきましたが、通商問題を巡る緊張の増大が世界経済に与える影響や、海外経済の動向と政策に関する不確実性等、依然留意が必要な状況で推移いたしました。

このような情勢下において当社グループでは、主力の映画事業において、新海誠監督作品「天気の子」がメガヒットを記録したほか、多数の話題作や定番のアニメーション作品を配給し、演劇事業においても様々な話題作を提供いたしました。この結果、営業収入は1440億5千8百万円（前年同四半期比8.3%増）、営業利益は335億3千9百万円（同32.8%増）、経常利益は345億7千8百万円（同31.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は228億8千5百万円（同35.8%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

映画事業

映画営業事業のうち製作部門では、東宝(株)において「天気の子」「名探偵コナン 紺青の拳（こんじょうのフィスト）」「キングダム」等の11本、国際東宝(株) (Toho International, Inc.) において「名探偵ピカチュウ」「ゴジラ キング・オブ・モンスターズ」の共同製作を行い、また、東宝(株)において劇場用映画「屍人荘の殺人」等を制作いたしました。

映画営業事業のうち配給部門では、当第2四半期連結累計期間の封切作品として、東宝(株)において前記作品の他、「映画ドラえもん のび太の月面探査記」「映画クレヨンしんちゃん 新婚旅行ハリケーン ～失われたひろし～」を含む15本を、東宝東和(株)等において「ワイルド・スピード/スーパーコンボ」「ペット2」等の9本を配給いたしました。また、当社グループでは、米国子会社の国際東宝(株) (Toho International, Inc.) を重要性が増したことにより、第1四半期連結会計期間の期首より連結の範囲に含めております。これらの結果、映画営業事業の営業収入は31,232百万円（前年同四半期比6.0%増）、営業利益は8,332百万円（同33.4%増）となりました。

なお、東宝(株)における映画営業部門・国際部門を合わせた収入は、内部振替額（2,511百万円、前年同四半期比121.0%増）控除前で36,450百万円（同34.2%増）であり、その内訳は、国内配給収入が29,133百万円（同27.7%増）、製作出資に対する受取配分金収入が1,609百万円（同116.7%増）、輸出収入が2,018百万円（同83.8%増）、テレビ放映収入が1,125百万円（同75.0%増）、ビデオ収入が650百万円（同6.0%増）、その他の収入が1,913百万円（同53.0%増）でした。また、映画企画部門の収入は、内部振替額（965百万円、前年同四半期比15.5%減）控除前で2,130百万円（同9.9%減）でした。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、前記配給作品の他に、「アラジン」「トイ・ストーリー4」等、邦洋画の話題作を上映いたしました。当第2四半期連結累計期間における映画館入場者数は、28,966千人と前年同四半期比10.5%増となりました。これらの結果、映画興行事業の営業収入は52,296百万円（前年同四半期比16.8%増）、営業利益は10,877百万円（同35.2%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間中の劇場の異動はありません。当企業集団の経営するスクリーン数は全国で687スクリーン（共同経営56スクリーンを含む）となっております。

映像事業では、東宝(株)のパッケージ事業において、DVD、Blu-rayにて「映画刀剣乱舞-継承-」「マスカレード・ホテル」等を提供いたしました。出版・商品事業は劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「名探偵コナン 紺青の拳（こんじょうのフィスト）」「天気の子」をはじめとする当社配給作品及び「アベンジャーズ/エンドゲーム」「トイ・ストーリー4」等の洋画作品が順調に稼働いたしました。アニメ製作事業では、映画「名探偵コナン 紺青の拳」「天気の子」や、TVアニメ「Fairy gone フェアリーゴーン」「Dr. STONE」等に製作出資し、「僕のヒーローアカデミア」等、製作出資いたしました作品の各種配分金収入がありました。実写製作事業では、「東宝怪獣キャラクター」等の商品化権収入に加え、製作出資いたしました作品の各種配分金収入がありました。ODS事業では「プロメア」「海獣の子供」等を提供いたしました。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では原価管理に努めながら、映画やTV・CM等での舞台製作・美術製作、テーマパークにおける展示物の製作業務、メンテナンス業務、及び大規模改修工事等を受注いたしました。これらの結果、映像事業の営業収入は15,159百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は3,752百万円（同39.3%増）となりました。

なお、東宝(株)における映像事業部門の収入は、内部振替額(2,447百万円、前年同四半期比62.7%増)控除前で13,199百万円(同2.6%増)であり、その内訳は、パッケージ事業収入が2,825百万円(同35.5%減)、出版・商品事業収入が3,266百万円(同19.0%増)、アニメ製作事業収入が4,166百万円(同9.4%減)、実写製作事業収入が1,241百万円(同119.0%増)、ODS事業収入が1,700百万円(同198.4%増)でした。

以上の結果、映画事業全体では、営業収入は98,688百万円(前年同四半期比10.1%増)、営業利益は22,962百万円(同35.2%増)となりました。

演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場におきまして、3月「Endless SHOCK」が全席完売、4、5月「レ・ミゼラブル」、6～8月「エリザベート」がともに連日満席となりました。シアタークリエにおきましては、3月「VOICARION IV Mr.Prisoner」が大入り、4～6月「ジャニーズ銀座2019 Tokyo Experience」は完売、6月「CLUB SEVEN ZERO II」は満席、7月「SHOW BOY」は全席完売、8月「ブラッケン・ムーア ～荒地の亡霊～」は満席となりました。日生劇場では3月「プリシラ」、4月「笑う男 The Eternal Love -永遠の愛-」を上演し、その他全国へと社外公演を展開いたしました。東宝芸能(株)では所属俳優がCM・TV・映画等で順調に稼働いたしました。以上の結果、前期と演目等の違いはございますが、演劇事業の営業収入は8,730百万円(前年同四半期比5.0%増)、営業利益は2,462百万円(同93.7%増)となりました。

なお、東宝(株)における演劇事業部門の収入は、内部振替額(76百万円、前年同四半期比8.6%減)控除前で7,818百万円(同4.7%増)であり、その内訳は、興行収入が6,287百万円(同6.8%増)、外部公演収入が1,436百万円(同4.4%減)、その他の収入が94百万円(同24.1%増)でした。

不動産事業

不動産賃貸事業では、東宝(株)の「天神東宝ビル」が3月に開業いたしました。また、全国に所有する不動産が堅調に稼働し、事業収益に寄与いたしました。東宝(株)の東宝スタジオでは、ステージレンタル事業におきまして、映画・TV・CMともに順調に稼働いたしました。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は14,778百万円(前年同四半期比1.8%増)、営業利益は6,599百万円(同3.9%増)となりました。

企業集団の保有する賃貸用不動産の空室率につきましては、一時的なテナントの入れ替えにより、0.5%台で推移しております。企業集団の固定資産の含み益については、2019年1月1日の固定資産課税台帳の固定資産税評価額を市場価値として、税効果を考慮した後の評価差額のうちの東宝の持分は約2877億円となっております。(当該含み益の開示は、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」に基づくものではなく、当会計基準とは別に、開示情報の充実性の観点から従来より引き続き自主的に行うものです。)

なお、東宝(株)における土地建物賃貸部門の収入は、内部振替額(434百万円、前年同四半期比2.7%減)控除前で15,752百万円(同1.8%増)でした。

道路事業では、受注競争の激化や建設技能者の慢性的な不足等があり、依然として予断を許さない状況が続くなか、スバル興業(株)と同社の連結子会社が、原価管理の徹底によるコストの削減や業務の効率化による収益の向上に努めました。その結果、道路事業の営業収入は14,087百万円(前年同四半期比9.9%増)、営業利益は2,708百万円(同44.7%増)となりました。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び東宝ファシリティーズ(株)が、労務費や資材価格の高騰、人員不足の常態化等により厳しい経営環境が続くなか、新規受注に取り組むとともにコスト削減努力を重ねました。その結果、営業収入は5,331百万円(前年同四半期比2.1%減)、営業利益は517百万円(同4.0%増)となりました。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は34,197百万円(前年同四半期比4.3%増)、営業利益は9,824百万円(同12.7%増)となっております。

その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、東宝共栄企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」、(株)東宝エンタープライズの「東宝ダンスホール」、TOHOリテール(株)の飲食店舗・劇場売店等で、お客様ニーズを捉えた充実したサービスの提

供に努力いたしました。その結果、その他事業の営業収入は2,441百万円（前年同四半期比6.7%増）、営業利益は103百万円（同3.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は26,021百万円増加し、485,667百万円となりました。これは投資有価証券で13,166百万円の減少がありましたが、現金及び預金で16,467百万円、現先短期貸付金で7,999百万円、有価証券で6,918百万円増加したこと等によるものです。

負債では前連結会計年度末から11,693百万円増加し、105,436百万円となりました。これは主に、買掛金で3,898百万円、未払法人税等で5,016百万円増加したこと等によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比較して14,327百万円増加し、380,231百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益22,885百万円の計上及び剰余金の配当4,949百万円等による利益剰余金17,953百万円の増加の他に、その他有価証券評価差額金が4,062百万円減少したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

映画事業

東宝(株)、東宝東和(株)等において、以下の作品を共同製作、配給いたします。また、東宝(株)の製作部門では劇場用映画作品等の制作にも取り組んでまいります。これらにより、映画営業事業の営業収入は48,400百万円（前年度比8.6%増）を見込んでおります。

東宝(株) 共同製作／配給作品	
かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛頭脳戦～	記憶にございません！
HELLO WORLD	蜜蜂と遠雷
空の青さを知る人よ	マチネの終わりに
ルパン三世 THE FIRST	屍人荘の殺人
映画 妖怪学園Y 猫はHEROになれるか	僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ヒーローズ：ライジング
カイジ ファイナルゲーム	ラストレター
ヲタクに恋は難しい	スマホを落とすだけなのに 囚われの殺人鬼
東宝東和(株)等 配給受託作品	
アス	僕のワンダフル・ジャーニー
イエスタデイ	クロール ―凶暴領域―(東和ピクチャーズ(株))
ジェミニマン(東和ピクチャーズ(株))	ヒックとドラゴン 聖地への冒険
ダウントン・アビー	キャッツ

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、前記配給作品の他に「アナと雪の女王2」「スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」等の話題作を上映する予定です。映画興行事業の営業収入は87,200百万円（前年度比3.8%増）を見込んでおります。

また、第3四半期以降の劇場の異動予定につきましては、2019年9月に熊本県熊本市中央区に「TOHOシネマズ熊本サクラマチ」をオープン、2019年10月に東京都千代田区の「有楽町スバル座」を閉館し、当連結会計年度末には全国で8スクリーン増の695スクリーン（共同経営56を含む）となる予定です。

映像事業では、東宝(株)のパッケージ事業において映画「ゴジラ キング・オブ・モンスターズ」「名探偵ピカチュウ」「名探偵コナン 紺青の拳」やTVアニメ等のバラエティに富んだ作品ラインナップを提供いたします。出版・商品事業は劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて、「かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛頭脳戦～」「HELLO WORLD」「空の青さを知る人よ」「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ヒーローズ：ライジング」等の当社配給作品や「アナと雪の女王2」「スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」等の洋画作品を幅広く展開する予定です。アニメ製作事業では、TVアニメ「僕のヒーローアカデミア」「BEASTARS」「アズールレーン」「ハイキュー!! TO THE TOP」を共同製作する等、コンテンツの確保と利用に注力いたします。また、ゴジラ生誕65周年を記念して恒例の「ゴジラ・フェス2019」を開催し、その特別企画として「東宝スタジオツアー」を

実施するなど、「ゴジラ」をはじめとする「東宝怪獣キャラクター」の商品化権収入等の更なる拡大に努めます。ODS事業は、アニメーション映画「HUMAN LOST 人間失格」「劇場版 新幹線変形ロボ シンカリオン 未来からきた神速のALFAX」等、幅広いジャンルのコンテンツを提供いたします。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では、人材の確保や施工管理・原価管理等に努めながら、映画やTVの美術製作、イベント工事等の受注拡大のため、積極的な営業活動に取り組んでまいります。以上から、映像事業の営業収入は31,100百万円(前年度比1.4%増)を見込んでおります。

これらの結果、映画事業全体では、営業収入は166,700百万円(前年度比4.7%増)を見込んでおります。

演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場・シアタークリエの他、以下の公演を予定しております。この他、社外公演として「Endless SHOCK」等を全国に展開いたします。また、東宝芸能(株)では、CM・TV・映画等での所属俳優の活動に向けて積極的に営業活動を展開してまいります。

これらの結果、演劇事業の営業収入は17,100百万円(前年度比0.6%増)を見込んでおります。

帝国劇場	
(9月)DREAM BOYS	(10月)ラ・マンチャの男
(11月)ダンス オブ ヴァンパイア	(12-1月)JOHNNYS' ISLAND
シアタークリエ	
(9月)Little Women -若草物語-	(10月)ラヴズ・レイバーズ・ロストー恋の骨折り損-
(11月)ビッグ・フィッシュ	(12月)ロカビリー☆ジャック*
(1-2月)シャボン玉とんだ 宇宙(ソラ)までとんだ	(2月)グッドバイ*
(2月)VOICARION	
その他の劇場	
(10月)逃げるは恥だが役に立つ(ヒューリックホール東京)	(10月)ジャニーズ伝説2019*(日生劇場)
(11-12月)天使にラブ・ソングを〜シスター・アクト〜(東急シアターオーブ)	(12月)ENTA!2 4U.Zeppin de SHOW*(Zeppダイバーシティ東京他)
(1月)フランケンシュタイン*(日生劇場)	(2月)天保十二年のシェイクスピア(日生劇場)

(注)作品名の「*」は共同製作公演となります。

不動産事業

不動産賃貸事業では、東宝(株)の不動産経営部門で、東京都千代田区の「東宝ツインタワービル」を2019年12月に閉館し、再開発に着手いたします。また、長期的視野に立った設備改修や再開発の企画立案を通し、全国に所有する不動産の有効活用に努めつつ、テナントに対するきめ細かな対応と意思の疎通に心掛ける等、積極的な営業活動により業績の向上を目指します。東宝(株)の東宝スタジオでは、当社配給作品を中心に映画・TVドラマ・CM等を積極的な営業活動で誘致して、今後も製作現場の期待に応じてまいります。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は28,700百万円(前年度比2.0%減)を見込んでおります。

道路事業では、スバル興業(株)と社長の連結子会社が、原価管理の徹底を基本とし、積極的な営業活動を行い、受注の拡大を図ってまいります。道路事業の営業収入は、26,500百万円(前年度比5.3%増)を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び東宝ファシリティーズ(株)が、価格競争が続く事業環境下においても新規受注の獲得に取り組んでまいります。その結果、不動産保守・管理事業の営業収入は10,900百万円(前年度比1.4%減)を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は66,100百万円(前年度比0.9%増)を見込んでおります。

その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、東宝共栄企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」、TOHOリテール(株)の飲食店舗・劇場売店等流通・小売サービス事業において、積極的に営業施策等を展開してまいります。

その結果、その他事業の営業収入は4,100百万円(前年度比9.5%減)を見込んでおります。

なお、通期における設備投資は通常の改修工事（減価償却費（予算9,500百万円）の範囲内での改修工事）と本年3月に開業した「天神東宝ビル」や、本年9月にオープンした「TOHOシネマズ 熊本サクラマチ」の新規工事等を含め、予算12,500百万円の範囲内で行うことを見込んでおります。

以上の結果、当連結会計年度の営業収入は2540億円（前年度比3.1%増）、営業利益は500億円（同11.2%増）、経常利益は520億円（同11.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は345億円（同14.2%増）を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,311	32,779
受取手形及び売掛金	21,682	27,807
有価証券	44,138	51,056
たな卸資産	10,272	11,981
現先短期貸付金	60,999	68,999
その他	27,432	27,653
貸倒引当金	△66	△71
流動資産合計	180,770	220,205
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	83,156	83,834
土地	57,457	57,901
建設仮勘定	2,236	1,167
その他（純額）	8,149	8,273
有形固定資産合計	150,999	151,177
無形固定資産		
のれん	4,883	4,527
その他	2,744	2,564
無形固定資産合計	7,628	7,092
投資その他の資産		
投資有価証券	101,918	88,752
その他	18,625	18,838
貸倒引当金	△297	△398
投資その他の資産合計	120,246	107,191
固定資産合計	278,875	265,461
資産合計	459,646	485,667

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,371	23,270
短期借入金	212	207
1年内返済予定の長期借入金	10	15
未払法人税等	6,545	11,562
賞与引当金	924	954
その他の引当金	61	0
資産除去債務	—	57
その他	17,799	22,618
流動負債合計	44,925	58,686
固定負債		
長期借入金	65	60
退職給付に係る負債	3,510	3,516
役員退職慰労引当金	140	135
その他の引当金	356	356
資産除去債務	6,731	6,735
その他	38,011	35,945
固定負債合計	48,816	46,749
負債合計	93,742	105,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	14,691	14,691
利益剰余金	329,341	347,294
自己株式	△23,232	△23,240
株主資本合計	331,156	349,101
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,876	19,813
土地再評価差額金	800	800
為替換算調整勘定	56	△429
退職給付に係る調整累計額	△1,087	△1,033
その他の包括利益累計額合計	23,646	19,151
非支配株主持分	11,100	11,978
純資産合計	365,903	380,231
負債純資産合計	459,646	485,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
営業収入	132,984	144,058
営業原価	77,103	79,877
売上総利益	55,881	64,180
販売費及び一般管理費		
人件費	9,189	9,563
広告宣伝費	5,318	4,385
賞与引当金繰入額	717	688
退職給付費用	433	483
役員退職慰労引当金繰入額	12	14
借地借家料	4,631	5,144
その他	10,314	10,360
販売費及び一般管理費合計	30,617	30,641
営業利益	25,264	33,539
営業外収益		
受取利息	12	33
受取配当金	818	891
持分法による投資利益	106	278
為替差益	135	—
その他	55	57
営業外収益合計	1,129	1,261
営業外費用		
支払利息	34	16
為替差損	—	179
その他	3	26
営業外費用合計	37	222
経常利益	26,355	34,578
特別利益		
固定資産売却益	174	609
特別利益合計	174	609
特別損失		
投資有価証券評価損	342	58
減損損失	17	—
固定資産解体費用	256	—
立退補償金	438	—
特別損失合計	1,054	58
税金等調整前四半期純利益	25,475	35,129
法人税、住民税及び事業税	7,773	11,357
法人税等調整額	236	△163
法人税等合計	8,009	11,193
四半期純利益	17,466	23,935
非支配株主に帰属する四半期純利益	616	1,050
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,849	22,885

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
四半期純利益	17,466	23,935
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,543	△4,066
為替換算調整勘定	△34	△486
退職給付に係る調整額	27	53
持分法適用会社に対する持分相当額	0	3
その他の包括利益合計	1,537	△4,494
四半期包括利益	19,003	19,440
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,391	18,390
非支配株主に係る四半期包括利益	611	1,050

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	25,475	35,129
減価償却費	4,646	4,818
のれん償却額	356	356
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	106
受取利息及び受取配当金	△831	△925
支払利息	34	16
持分法による投資損益(△は益)	△106	△278
投資有価証券評価損益(△は益)	342	58
売上債権の増減額(△は増加)	△9,868	△6,118
たな卸資産の増減額(△は増加)	△506	△1,797
仕入債務の増減額(△は減少)	6,039	3,897
未払消費税等の増減額(△は減少)	64	1,496
その他	4,934	2,767
小計	30,583	39,526
利息及び配当金の受取額	1,049	1,108
利息の支払額	△49	△31
法人税等の支払額	△7,455	△6,416
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,128	34,187
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△29,403	△31,821
有価証券の売却による収入	36,800	41,300
有形固定資産の取得による支出	△6,260	△5,139
有形固定資産の売却による収入	1,202	1,002
投資有価証券の取得による支出	△7,621	△9,050
貸付けによる支出	△56	△0
貸付金の回収による収入	89	59
金銭の信託の取得による支出	△1,000	—
金銭の信託の解約による収入	2,400	400
その他	△145	△415
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,996	△3,664
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1	△5
長期借入れによる収入	35	10
長期借入金の返済による支出	△35	△10
自己株式の取得による支出	△21	△12
配当金の支払額	△5,842	△4,949
非支配株主への配当金の支払額	△173	△171
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2	△1
リース債務の返済による支出	△6	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,047	△5,145
現金及び現金同等物に係る換算差額	65	△544
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,149	24,832
現金及び現金同等物の期首残高	62,470	78,496
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	28
現金及び現金同等物の四半期末残高	76,620	103,358

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度まで非連結子会社でありました国際東宝㈱(Toho International, Inc.)は、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	89,595	8,312	32,788	130,697	2,287	132,984	—	132,984
セグメント間の内部売上高 又は振替高	827	46	2,635	3,509	33	3,543	△3,543	—
計	90,423	8,359	35,424	134,207	2,321	136,528	△3,543	132,984
セグメント利益又は損失(△)	16,989	1,271	8,719	26,980	100	27,080	△1,816	25,264

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店・娯楽施設及びスポーツ施設の経営事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,816百万円は、セグメント間取引消去△17百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,798百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	98,688	8,730	34,197	141,617	2,441	144,058	—	144,058
セグメント間の内部売上高 又は振替高	846	18	2,392	3,257	32	3,289	△3,289	—
計	99,535	8,749	36,589	144,874	2,473	147,348	△3,289	144,058
セグメント利益又は損失(△)	22,962	2,462	9,824	35,249	103	35,352	△1,813	33,539

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店・娯楽施設及びスポーツ施設の経営事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,813百万円は、セグメント間取引消去25百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,839百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。